

いっぺん言ってみたかった、

お前には売りにたくない！と、

日本アイアールは、いろいろな商品を開発していますが、その中の一つである「英文直読講座USパテントを読む」を検討いただいた結果報告です。キツイことをハッキリと言っています。当人は入社3年目未満らしいのですが、バリバリの英語達人だそうです。ごもっともな意見ですが、超一流企業といっても、全社員が英語堪能であるとは限らないと思いますけど……。中にはそれなりに苦労している方もいるはずですよ。そのような人達にも配慮があってもいいんじゃないかなあ?と思っています。 発明くん (2015/03/09)



表記講座受講の要否について

この講座のサンプルテキストを読み、Webの無料体験版講座をやってみました。その結果、この講座は知財関係者、知財に触れることの多いエンジニアには向かない（必要ない）と思われました。受講の必要があるのは、USPを読んだことがあまりなく、どう読んでいいかわからないレベルの人と考えます。

その理由について

この講座では、英文の基本構造、すなわち最初に、抽象的 or 一般的な記述があって、その後それらの具体的記述、特定化した記述がくる、ということを知り、文章をモジュール分割して頭から順に進んでいく練習をします。つまり、英語の日本語の文章の構造の違いを知ることによって、英語を日本語的に後ろから前に読む

(例えば、関係代名詞がある場合、関係代名詞の後ろの部分の部分を先に呼んで、それを前の文節にかけて読む)癖を修正するという意図があるようです。モジュールというのは文節に相当するようですが、文章を文節に区切って読むというのは、おそらく高校までに教わっていることが多いと思われ、特にこの講習で教わらなくても、大方の人は通常無意識にやっていると思われれます。

ですので、上記のモジュール分割読解法をUSPの明細書を読む際に応用し、アブスト、従来技術と読む練習を経て、最終的には難解と思われがちなクレームを効率よく読みこなせるようになる、ということのようですが、通常私たちがしている方法と比べて特別に優れたやり方だとは思われられません。もちろん、モジュール分割以外の特別なテクニックを駆使するわけでもないの、大量の文章を早く読めるようになるのかどうか疑問です。

また、USPを読む講座ということで、USPの読解の前にUSPTOの無料検索の利用方法なども講義するようですが、これについてもいまさら教わるまでもありません。特に、知財関係の仕事をしている人や、特許に触れる機会の多いエンジニアの人にとっては、この講座から学ぶことはないと思われられます。



発明くん、怒りの抗議

物ごとを決めるときは、自分に役立つかではなく、会社にとって役立つか否かを判断すべきです。特にエリート意識だけではなく、見識が求められます。何ごとも好奇心を持っておもしろがる人もいれば、そうでない人もいます。そうでない人にあたってしまったときは、お互いが不幸で、運がなかったということでしょう。

おせっかいだが、ひとこと言いたいです！自分と他人とは違う。いろんな人がまわりにいるからこそ、うまく行くんじゃないの？

なんでも学ぶ素直さと謙虚さがないと、その人間は伸びないと思われいます。日本人の質が2極化されていくのに、超一流企業のエリートがこんなに視野が狭いと困ります。タコつぼに入っていたのでは世界に互してはいけません。